

# 研修医通信

Vol.13

発行日 2011/4/28

4月4日～15日の2週間内科研修でお世話になりました、鈴鹿中央総合病院（以下鈴中）2年次研修医の野呂綾です。鈴中の地域医療研修先に紀南病院が加わったのは今年度からで、私が研修第一号！人も気候もあたたかい阿田和でおいしい魚を食べながら・・・なんてのんびりしたイメージを抱きつつ研修に臨みました。しかし、蓋を開けてみると、内科医師数人でかかえる100人以上の入院患者、救急外来の対応、診療所往診など・・・先生方の多忙さに驚愕するとともに、そんな中でも失われたいモチベーション、知識欲、フットワークの軽さ、そして何より楽しい職場にしたいという気構えに圧倒されました。私も入院患者さんを担当させていただきましたが、治療方針の決定や退院調整、また病状のみならず社会的背景やご家族のことまで頭を回したのは正直初めてで、本当に「患者をもつ」ということの難しさと面白さを知りました。また、鈴中と違って独居の高齢者が多く、社会的入院や看取りのための入院もあり、自分でご家族やケアマネさん、SWさんと連絡をとってお話をさせていただいたことも良い経験でした。また、紀和や荒坂診療所でも診療にあたらせていただきました。車酔いしながらでしたが、何時間も待っていてくださる方々、頼られることの喜びと責任感、医師としてのやりがいを感じました。紀南に来なければ味わえなかった気持ちだと思います。

2週間はやはり短くあっという間で、少し慣れてきた頃に終わってしまい残念です。しかし、たくさんの方々が手を尽くしてくださったおかげで本当に充実した2週間でした。短い期間でしたが、懇切丁寧に指導して下さり、飲み会もたくさん開いてくださった奥野先生、浦吉先生はじめ内科の先生方、研修スケジュールを熟考してくださった三石さん、山口さん、たくさんご迷惑をおかけした病院スタッフの方々、貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。紀南での経験を糧とし、これからの研修に生かしていけるよう精進します！！

どうも初めまして二年目研修医の鈴木康夫です。三重県育ちで三重大学卒業です。ずっと三重県で生活していた中、志摩までしか行ったことがなかったため26年目にして初の紀南を体験しました。最初に紀南病院に来た日は津から車で高速を乗り、下道で揺られること1時間50分程、途中尾鷲のマグナロードで休憩をはさみつつ…。慣れない道で迷いつつ、疲れるなという思いでしたが、研修初日より、スタッフの方々の温かさで疲れが癒えました。

研修自体はあっという間に一月の研修が終了してしまいました。僕は外科研修ということで、3階中央病棟、手術室、透視室が一番通っていたところですが、新しい病院なので慣れないなか、スタッフの方々が優しく教えてくださったので非常に助かりました。特に手術は火曜日～金曜日まであり、腸閉塞、虫垂炎、腹腔鏡下胆嚢摘出術など割と一般的な手術も経験できました。色々と不慣れで迷惑をおかけした部分も多いですが、皆さまには優しくしていただけでも嬉しかったです。

週末は観光をもう少ししたかったのですが、あまりできなかったのが心残りです。同期が白浜のアドベンチャーワールドに行ったことを嬉しそうに話してくれたのは羨しかったです。

この紀南病院での日々を糧に一回り大きな医者になれるように頑張っていきます。お世話になった先生方、スタッフの皆さま、この地域の全ての皆さま、本当にありがとうございました。

先月から研修させて頂いていた、二年目研修医となった福岡です。年度を越えて研修医が在籍するというのは紀南病院にとって初めてのことであったそうですが、無事二カ月間の研修を終えることができました。

今月は同期の研修医が増え、また新内科リーダーとなった浦吉先生の御心遣いのおかげで、忙しくも楽しい充実した時間を過ごすことができました。また県外の診療所で研修させて頂けるということで、以前から興味があった福井県の名田庄診療所に行ってきました。私の実家（福井県越前市）から車で約2時間、帰りは紀南病院まで約6時間半（約330km）の長旅でしたが、良い経験ができました（思わぬ再開と出会いもありました）。

紀南病院での研修を通して、医師不足、高齢化社会を実感するとともに、チーム医療の大切さ、入院から退院その後へのマネージメント、早期リハビリの重要性を学ぶことができました。今後医療を行っていくに当たって、大切なことをたくさん教えて頂きました。

研修医生活も一年を終えて、今後自分がやりたいことがみえてきたように思います。お世話になった方々に恩返しができるよう、頑張っています。 福岡 秀介

はじめまして、4-5月に研修させて頂いていただいています古田です。出身は徳島ですが、高校・大学は雪の多い山で生活してきました。就職してからはビルの狭間でモグラのように暮らしていたので、紀南病院に到着してからは空を見上げることや海を眺めるのを心から楽しんでいきます。

大病院でふんわりと生活してきた私にとって、1か月間の内科研修は刺激的でした。今までは「見ていた患者さんを「診る」ようになったことで、自分の知識の少なさや決断力のなさを痛感したように思います。また、データや病名にこだわらず、個々の事情を考慮した治療を行うためにバックグラウンドを含めた患者さん個人を見る大切さを学んでいます。

力不足で悲しくなることもあります。あまり下を向かず、2か月を楽しもうと思っています。コミュニティに属し、一人ひとりにあった医療を行えるように、残り1か月精進したいと思いますので、よろしくお願いします。 古田 愛



片川地区の写真を撮る研修医たち 撮影者 福山

2年目研修医福山です。この1カ月は産婦人科でお世話になりました。僕の出身地は志摩市阿児町でここ御浜町と同じ様に海のすぐ近くで育ちましたが、こちらに来てみると海が改めて大きく感じられました。産婦人科研修ではお産や外来の場で学生時代には行わなかった手技を経験させていただきました。自分がもうすぐ結婚することもあり、地域での産婦人科医療の大切さを考えさせられました。地域医療研修としてはタウンミーティング、学校健診に参加させていただきました。タウンミーティングでは片川地区にお邪魔しましたが、想像以上に山の中であり、そこでの生活がどんなものなのかイメージすることができませんでした。しかし、片川地区の歴史や暮らしの様子を聞くにつれ、そこでも同じように医療を必要とする人が暮らしていることを知りました。そこでのニーズが他の地域と大きく違うとは思えませんが、不安なく暮らしていくためには行政や医療機関の協力が必要と感じました。この1カ月は同期や学生さんが多く、自分の勉強不足を感じ、刺激を受けることができました。来月からは小児科研修となりますが、引き続き頑張っていきたいと思っています。 編集長 福山